

R3年度 事業名	福井鉄道福武線支援事業
R2年度 事業名	福井鉄道福武線支援事業

総合戦略 体系	421	安心で快適に暮らせるまちの創造	幹線交通網の変化を見据えた二次交通網の整備	幹線交通網と二次交通網のネットワークによる地域公共交通網の形成
------------	-----	-----------------	-----------------------	---------------------------------

PLAN (計画)	部署名	総合交通課	開始年度	2008	終了年度	2022
	目的	福井鉄道福武線の運行維持のため、県および沿線3市で行政支援を実施し経営安定化に資する。				
	概要	平成29年度に改定を行った福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画に基づき、福井鉄道に対し平成30年度～令和4年度までの5年間で国・県が22.4億円、沿線3市で7.5億円の行政支援を行う。このうち沿線3市の助成は運行維持修繕費に当てられる。また、令和6年春の並行在来線運行開始を見据え、より魅力ある地域鉄道としての価値を見出し、利用促進へとつなげていくために、並行在来線やえちぜん鉄道との共同事業や、企画切符など、事業連携のあり方を検討していくとともに、行政と沿線住民、市民団体が連携して地域の鉄道の利用促進を図るため、「福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議」の活動を支援する。				
	コロナ対応 の取組	特になし				
	法令 根拠 現在	補助金等交付	実施 形態	内容	運行維持費補助金 48,600千円・利用促進鯖江市民会議補助金 180千円 福井鉄道福武線活性化連携協議会負担金 750千円	

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	※設定困難			目標値					
				実績値					
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	鯖江市内6駅利用者数		人	目標値	520,000	520,000	520,000	500,000	500,000
				実績値	474,449	463,782	372,949		
	計算 根拠			達成率	91.2	89.2	71.7		
				実数値					
			ランク	B	B	C			
前年度 ランク B、Cの 理由	コロナ禍の影響により、外出自粛やテレワーク、学校関係の臨時休校などにより利用者が大幅に減となった。								

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額	41,950	109,550	49,550	49,550	49,530		事業タイ	単独事業
	決算額	41,950	109,550	49,550	49,550			経費区分	補助費等

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	2	1	8	603	福井鉄道福武線支援事業費	49,530	49,530	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	49,530

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	0.1
	臨時・嘱託	
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。 (評価1いいえ・2はい)	<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	効率性	今以上に、コスト削減させる余地はないか。 <input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない
行政が実施すべき事業か。 (評価1必要なし〜5必ず実施すべき)	<input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 4 <input checked="" type="radio"/> 5	効率性	今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う 人員削減させる余地はないか。 <input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない
住民等のニーズはあるか。 (評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり)	<input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 <input type="radio"/> 3 <input type="radio"/> 4 <input checked="" type="radio"/> 5	有効性	今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を 確保する余地はないか。 <input type="radio"/> ある <input checked="" type="radio"/> ない
国・県または民間のサービスと競合している事業がある。 (評価1はい・2いいえ)	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	有効性	今以上に、成果を向上させる余地はないか。 <input checked="" type="radio"/> ある <input type="radio"/> ない
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。 (評価1はい・2いいえ)	<input type="radio"/> はい <input checked="" type="radio"/> いいえ	②事務改善 評価点数の合計 13 / 20 A	
①必要性 評価点数の合計 15 / 16 A			

ACTION

今年度	R3方向性⇒ 維持
取組内容	新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画に基づき、サポート団体、県、沿線市と協働を図りながら、引き続き利用促進や財政支援を行っていく。また、令和6年春の並行在来線運行開始後も地域住民の重要な公共交通として存続できるよう、まずは福井鉄道福武線とえちぜん鉄道の資材の共同調達や工事の一括発注などの段階的に事業連携を推進していく。
来年度へ向けて	R2年度実績 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、鯖江市内6駅の利用者数は前年度比約9万人減少したが、福井鉄道福武線全25駅では約39万8千人減少した。 R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度においては利用者は3割減(前年対比)となった。令和3年度においても令和3年4月当初から回復傾向にはあるものの(前年度同月比利用者増)、依然として新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度と比べると、8割にとどまっており、「他の交通手段への移行」や「シニア層の出控え」等により利用回復には相当の期間が必要と思われる。 実績と課題を踏まえたR4年度の変更点 平成30年度から令和4年度までの5年間の支援スキームに則り継続的な支援を行う中で、新型コロナウイルス感染症の影響下においても利用者が安心して利用できる環境整備やアフターコロナに向けた旅行者受け入れ環境整備を引き続き支援していく。
	R4方向性⇒ 維持

【提案型市民主役事業実施】

年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R3年度 事業名	鯖江公共交通振興会運営補助事業
R2年度 事業名	鯖江公共交通振興会運営補助事業

総合戦略 体系	421	安心で快適に暮らせるまちの創造	幹線交通網の変化を見据えた二次交通網の整備	幹線交通網と二次交通網のネットワークによる地域公共交通網の形成
------------	-----	-----------------	-----------------------	---------------------------------

PLAN (計画)	部署名	総合交通課	開始年度	2005	終了年度	9999	
	目的	鯖江公共交通振興会が実施する事業を通して、JR、福井鉄道、つつじバスなどの公共交通利用促進を図る。					
	概要	鯖江公共交通振興会運営(以下が主な活動内容)のための補助を行う。 ・サンダーバードで行く鯖江市民号の企画 ・JR西日本金沢支社への陳情 ・JRおよび福井鉄道利用促進事業の企画・運営 ・福鉄プレミア1日フリー乗車券を提示された方がつつじバス1日無料になる制度の支援					
	コロナ対応の取組	令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、鯖江商工会議所と協議を行った結果、利用促進活動などの積極的実施を控えることとした。その結果、事業費が不要となったため、補助金執行を見送った。 R3年度についても、新型コロナウイルス感染拡大に配慮し補助金執行を見送った。					
法令根拠		実施形態	内容	補助事業である。			
現在	補助金等交付						

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	※設定困難			目標値					
				実績値					
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	会員数→振興会事業実施回数		回	目標値	135	135			
				実績値	114	119			
	計算根拠	会員数		達成率	84.4	88.2			
	振興会事業実施回数		回	目標値			3	3	3
				実績値			2		
	計算根拠	取組回数		達成率					
				実績値					
				ランク	B	B	C		
	前年度 ランク B、Cの 理由	コロナ禍の影響により、利用促進活動が出来なかった。							

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	会計	一般会計
	予算額	500	500	500	500	0	事業タイ	単独事業
	決算額	500	500	500	0		経費区分	補助費等

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	2	1	8	602	地方鉄道維持費補助金等	7,651	0	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	0

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1		
2		
3		
4		
5以降		
合計		0

事業要員	正規職員	
	臨時・嘱託	
	※所要時間	30

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **14 / 16 A**

今以上に、コスト削減させる余地はないか。
効率性 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う
人員削減させる余地はないか。
効率性 ある ない

今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を
確保する余地はないか。
有効性 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。
有効性 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ 内容縮小

今年度取組内容
会への支援を継続しながら、令和6年春の北陸新幹線敦賀開業、並行在来線の運行開始や、同年開通を目指している冠山峠道路、また2027年の名古屋・東京間のリニア開通など、今後の幹線交通の変化を見据え、より有効な鉄道、バスの利用促進策を協議していく。

R2年度の実績
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用促進活動は実施できなかったが、JR西日本金沢支社への陳情は実施した。会員については、ほぼ前年度からの継続。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
令和2年度より成果指標を「振興会事業実施回数」に変更した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により公共交通機関の利用促進活動実施も慎重に検討する必要がある。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
県が特急存続断念の方向性を6月県議会において示し、新快速の相互乗り入れについても県の総意ではなくなったことを9月議会で示したことをうけ、従来の鯖江市商工会議所と市民号実施の必要性などの実施事業の精査を行うとともに、振興会のあり方そのものについても検討していく必要がある。

R4方向性⇒ 維持

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	つつじバス運行事業
R2年度 事業名	つつじバス運行事業

総合戦略 体系	421	安心で快適に暮らせるまちの創造	幹線交通網の変化を見据えた二次交通網の整備	幹線交通網と二次交通網のネットワークによる地域公共交通網の形成
------------	-----	-----------------	-----------------------	---------------------------------

PLAN (計画)	部署名	総合交通課	開始年度	2010	終了年度	9999
	目的	高齢者、障がい者にもやさしい市民の足を確保する。 北陸新幹線敦賀開業時により幹線交通網が大きく変化するため、幹線交通網と二次交通網のネットワーク化を図り、より利便性の高い公共交通網を形成する。				
	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス「つつじバス」を事業者に委託して運行する。 ・幹線交通網と二次交通網のネットワーク化の推進を図るため、「鯖江市地域公共交通活性化協議会」を設置し、「鯖江市地域公共交通網形成計画」ならびに「鯖江市地域公共交通再編実施計画」を策定し、通勤通学や東西間のスムーズな移動等市民ニーズに対応する。【平成29年度～令和3年度】 ・福井鉄道路線バスの鯖浦線とつつじバスとの接続を強化し、通学需要への対応に加え、隣接する越前陶芸村や越前和紙の里などと市内産業観光施設等との連携も図る。【平成29年度～令和3年度】 				
	コロナ対応 の取組	新型コロナウイルス感染症拡大にあっても、すべてのコミバスをダイヤ通りに運行を実施した。運行にあたっては、利用者が安全安心に利用できるよう抗ウイルス対策や消毒液等の設置、利用者への注意喚起のお知らせの掲示などを行った。				
	法令 根拠		実施 形態	内容	運行主体である市が民間乗合事業者に運行委託している。	
現在	民間等委託(全部)					

DO (実施)	活動指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	運行便数		便	目標値	21,435	21,503	21,503	21,503	21,503
				実績値	21,393	22,131	22,063		
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
	利用者数		人	目標値	180,000	180,000	180,000	150,000	150,000
				実績値	143,579	137,233	101,181		
	計算 根拠			達成率	79.8	76.2	56.2		
				実数値					
			ランク	C	C	C			
前年度 ランク B、Cの 理由	コロナ禍の影響により、外出自粛やテレワーク、学校関係の臨時休校などにより利用者が大幅に減となった。								

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額	124,017	118,109	121,098	115,537	115,227		事業タイ	補助(県)事業
	決算額	123,777	116,998	117,228	111,394			経費区分	物件費

DO(実施)

No	款	項	目	事業	R3年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)	
1	2	1	8	202	コミュニティバス運行事業費	115,227	115,227	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	115,227

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1	市町生活交通維持支援事業費補助金	22,000
2	コミュニティバス利用者負担金	12,000
3	広告料収入	1,000
4	コミュニティバスフィーダー国庫補助金	13,940
5以降		
合計		48,940

事業要員	正規職員	0.2
	臨時・嘱託	
	※所要時間	0

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **15 / 16 A**

今以上に、コスト削減させる余地はないか。
効率性 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う
人員削減させる余地はないか。
効率性 ある ない

今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を
確保する余地はないか。
有効性 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。
有効性 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ **維持**

今年度 取組内容
「鯖江市地域公共交通再編実施計画」に基づく運行を継続し利用者からの声を反映したダイヤの調整を行うとともに、コミバスと様々な事業・イベントとの連携、関係協力機関との共同PR活動など、企画研究し、新しい情報発信・利用促進活動に努めていく。

来年度へ向けて R2年度の実績
新型コロナウイルス感染拡大の影響による乗り控えにより、4月、5月と対前年月比40%ほどに落ち込んだ。その後は、徐々に回復傾向に転じたが、対前年同月比は70%前後で推移し、最終的には、対前年度比3万6千人の減となった。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度においては利用者は3割減(前年対比)となったが、令和3年度においては新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、令和3年4月当初から回復してきている(前年度同月比利用者増)ものの、依然として新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度と比べると、7割にとどまっており、「他の交通手段への移行」や「シニア層の出控え」等により利用回復には相当の期間が必要と思われる。
鯖江市地域公共交通再編実施計画が令和3年度に5年間の計画期間が終了することに伴い、令和2年に改正された地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく地域公共交通計画および地域公共交通利便増進実施計画を策定し、利用者増のための大幅なダイヤ見直しなどを行っていく。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
改正後の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律による地域公共交通計画および地域公共交通利便増進実施計画に基づき運行する令和4年4月1日改正のダイヤについて、利用者アンケートを実施しながら課題の整理を行っていく。

R4方向性⇒ **事務改善**

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R3年度 事業名	自家用有償旅客運送実証事業補助金
R2年度 事業名	自家用有償旅客運送実証事業補助金

総合戦略 体系	421	安心で快適に暮らせるまちの創造	幹線交通網の変化を見据えた二次交通網の整備	幹線交通網と二次交通網のネットワークによる地域公共交通網の形成
------------	-----	-----------------	-----------------------	---------------------------------

PLAN (計画)	部署名	総合交通課	開始年度	2020	終了年度	9999
	目的	河和田地区において、地域交通系実証事業および高齢者生活支援系実証事業について、密接な連携を図りながら、高齢者の移動手段を担う自家用有償旅客運送や高齢者の生活支援を実現、検証する。河和田地区でいつまでも住み続けられるまち「互助コミュニティ」の構築を目指す。				
	概要	地域交通系実証事業 高齢者生活支援系実証事業				
	コロナ対応 の取組	(R2年度)特になし (R3年度)ワクチン接種会場までのタクシー利用助成に対して一般社団法人として協力				
	法令 根拠		実施 形態	内容	補助事業である。	
	現在	補助金等交付				

DO (実施)	活動指標								
		指標名	単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
		有償ボランティアドライバー登録数	人	目標値			15	15	15
				実績値			-		
		成果指標							
		指標名	単位	年度	2018	2019	2020	2021	2022
		タクシー事業稼働回数(1ドライバー1月当たり平均)	回	目標値			15	15	15
				実績値			-		
		計算 根拠		達成率					
				実数値					
			ランク			-			
	前年度 ランク B、Cの 理由	2020年度は、許認可前の無償による実証運行であったため。							

【単位:千円】

事業費	区分	2017	2018	2019	2020	2021	タイプ	会計	一般会計
	予算額				6,000	6,000		事業タイ	交付金事業
	決算額				6,000			経費区分	補助費等

No	款	項	目	事業	R3年度事業名			
					予算書額	うち事業額(千円)		
1	2	1	8	201	公共交通施設管理諸経費	8,165	6,000	
2								
3								
4								
5以降								
							合計	6,000

No	R3年度補助金等名称	金額(千円)
1	次世代コミュニティモデル事業補助金(県1/2)	3,000
2		
3		
4		
5以降		
合計		3,000

事業要員	正規職員	0.1
	臨時・嘱託	
	※所要時間	0

DO(実施)

CHECK(評価)

法令により実施することが義務づけられているか。
(評価1いいえ・2はい) いいえ はい

行政が実施すべき事業か。
(評価1必要なし〜5必ず実施すべき) 1 2 3 4 5

住民等のニーズはあるか。
(評価1ニーズなし〜5十分にニーズあり) 1 2 3 4 5

国・県または民間のサービスと競合している事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業がある。
(評価1はい・2いいえ) はい いいえ

①必要性 評価点数の合計 **14 / 16 A**

効率性

今以上に、コスト削減させる余地はないか。 ある ない

今以上に、ITを活用した業務の効率化などに伴う人員削減させる余地はないか。 ある ない

有効性

今以上に、財源(補助金等、受益者負担など)を確保する余地はないか。 ある ない

今以上に、成果を向上させる余地はないか。 ある ない

②事務改善 評価点数の合計 **13 / 20 A**

ACTION

R3方向性⇒ **維持**

今年度 取組内容
 自家用有償旅客運送の実証運行「ちよいボラ交通」が5月6日から始まり、正式に会員登録およびドライバー募集を始めた。今年度は、料金の妥当性はあるか、運行ルールは妥当か、事業の採算性の検証と適正な料金設定の判断等を見極めていく。

来年度へ向けて R2年度実績
 許認可申請に向けて、無償による実証運行を行いながら、地域住民に本事業についての周知を図った。

R2年度実績とR3年度の経過を踏まえた課題
 R2年度は許認可前の無償による実証運行であったが、令和3年5月6日から自家用有償旅客運送事業として「ちよいボラ交通」の実証運行が始まり、正式に会員登録およびドライバー募集を始めたところである。今年度は市として広報さばえ1回、河和田地区公民館報2回と市民に対して周知を図った。今年度は、料金の妥当性はあるか、運行ルールは妥当か、事業の採算性の検証と適正な料金設定の判断等を見極めていく。

実績と課題を踏まえたR4年度の変更点
 引き続き広報さばえや河和田公民館報等で市民に対しての周知に努め、料金の妥当性はあるか、運行ルールは妥当か、事業の採算性の検証と適正な料金設定の判断や事業の持続可能性、市の支援のあり方等を見極めていく。

R4方向性⇒ **事務改善**

【提案型市民役事業実施】					
年度	2018	2019	2020	2021	2022
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R3年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	
R4年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒